

知性・創造性を育む教育課程の創造

～カリキュラム・マネジメントを推進するための校長の役割～

村 越 靖 (天童市立天童南部小学校)

1 はじめに

学習指導要領では、人工知能の進化やグローバル化など、変化の激しい社会を生き抜く資質・能力の育成が求められている。

そのためには、しなやかな知性と豊かな創造性など、たくましく未来を切り開く力を育む創意ある教育課程を創造していく必要がある。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

カリキュラム・マネジメントの視点から、知性・創造性を育む教育課程の編成と実施・評価・改善していくための校長の果たすべき役割を明らかにする。

(2) 研究計画と経過

①第1年次 (2019年度)

カリキュラム・マネジメントについての研修及び移行期における各学校の推進状況についての情報交換

②第2年次 (2020年度)

地区内先進校の実践を参考に、各学校における特色ある教育課程の編成と実践

③第3年次 (2021年度)

研究のまとめと提言

3 研究の内容

(1)カリキュラム・マネジメントに対する理解を深める。

①地区校長会における校長研修の実施

②各校における教員研修の実施

(2)校長にアンケート調査を実施し、カリキュラム・マネジメントを推進するための校長の役割を明確にする。

①目指す子ども像や育成する資質・能力の明確化

②教職員の参画意識を高め、全員のベクトルを揃えるための校内体制の整備

③地域の教育資源を活用できるシステムの構築

(3) 各学校の実態に応じた特色ある教育課程を編成し実践する。

①全職員の参画意識を高める実践例

・ 担任一人一人の個性を生かした学級カリキュラムの作成

・ 価値づけ会 (評価・改善) の実施

②教職員のカリキュラム・マネジメント力向上の実践例

・ OJT 機能を活用したカリキュラム編成会議

・ PDCA 機能を活用したカリキュラムタイム

・ カリキュラム・マネジメントに基づいた授業づくり

③ICT活用による実践例

・ 授業改善のための ICT 活用

・ 地域学習での ICT 活用

(4) 各学校から報告された実践を参考にし、次年度の教育課程編成に生かす。

4 成果 (○) と課題 (●)

○ カリキュラム・マネジメントについて教職員一人一人の理解が深まり、各学校・学年・学級の実態に応じた特色ある教育課程が編成されるようになった。

○ 各学校においてPDCAサイクルを回しながら教育課程の評価・改善がなされるようになってきた。

● カリキュラム・マネジメントを推進していくためには、どうしても時間と労力が必要になるため、働き方改革と両輪で取り組んでいく必要がある。

5 提 言

校長は、子どもの実態を把握し、育成すべき資質・能力を明らかにしたうえで、学校の目指す子ども像を具体的に設定する。さらに、学習環境や教職員、地域等の実態を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを推進しながら教育課程の質的向上を図る明確なビジョンを示すことが必要である。